

【エクアドル内政・外交：2011年7月】

1. 概要

- 7月 1日 モレノ副大統領、ヨルダン訪問
- 3日 モレノ副大統領、エジプト訪問
天野之弥・国際原子力機関(IAEA)事務局長、当国訪問
- 14日 パトリオタ伯外務大臣、当国訪問
- 16日 メチルアルコール含有密造酒による被害拡大
- 20日 エル・ユニベルソ新聞社訴訟：第一審判決
- 21日 コレア大統領、キューバ訪問
- 25日 ジェレミー・ブラウン英国外務閣外相、当国訪問
- 26日 暫定裁判官審議会の発足
- 27日 コレア大統領、ペルー訪問
- 31日 国会議長・運営理事会の選出

2. 内政

(1) 国会議長の選出

31日、エルナンデス与党議員(Virgio Hernandez)はコルデロ現議長(Fernando Cordero Cueva:与党)を議長候補(任期 2011年7月31日-13年5月)とする動議を本会議に提出し(当館注:国会議員の任期は4年であるが(憲法第118条)、議長の任期は2年で再任可能(憲法第121条)、賛成票60・反対票59・白票3・棄権2により議長に再任された。その後、行われた副議長選出は紛糾し、可決に必要な過半数を得ることが出来ずに終わり、次回の議会に持ち越された。

(2) 国会運営理事会(CAL:Consejo de Administracion Legislativa)の選出

31日、国会は運営理事としてクルス与党議員(Pedro de la Cruz)、コボ野党議員(Fausto Cobo:愛国協会党)、ウジョア野党議員(Francisco Ulloa:民主大衆運動党)、ムリジョ野党議員(Marco Murillo:自由同盟党)を任命した。

(3) 国会事務局長・事務次長

国会は事務局長にセゴビア氏(Fausto Andres Segovia Salcedo)を、事務次長にオルドネス氏(Libia Rivas Ordones)を賛成票72・反対票40・白票6・棄権6を以て任命した。

(4) 暫定裁判官審議会(CJT:Consejo de la judicature de Transicion)の発足

本年1月初旬、コレア大統領は急速に悪化する治安を改善するには、腐敗した司法機関を刷新しなければならないと国民に司法改革の必要性を説いた。大統領は司法機関の権限掌握、権力集中を模索していると批判が高まる中、5月7日に国民投票を実施した。質問4では「現行の裁判官審議会(CJ:Consejo de la Judicatura)を廃止し、①大統領 ②国会 ③市民参画・社会コントロール審議会が各々1名指名した計3名の委員で構成される暫定裁判官審議会の設置を認めるか」を問い、賛成52.02% 反対47.98%で承認された。

その後、①大統領はロドリゲス氏(Paulo Rodriguez)を、②国会はアリアス女史(Tania Arias)を、③市民参画・社会コントロール審議会はジャバル氏(Fernando Yavar)を委員に指名した。7月26日、国会にて右3名の就任式が行われた。この暫定裁判官審議会は最高裁判事21名、高裁判事、地裁判事の任命権を有しており、コレア大統領は思い通りの判事任命が事実上可能となった。

同日、アリアス委員は「最高裁判事の選抜試験につき 30 日以内に公示する。18 ヶ月以内に司法機関を全て刷新する」と述べた。

(5)公務員の強制解雇規定

7 日、コリア大統領は公務員の強制解雇を可能とする大統領令第 813 号に署名し、12 日付官報第 489 号掲載を以て同令は発効となった。

13 日、公務員労連(FEDESEP)は、同令第 8 条の解雇規定は強制解雇の危険性があり容認できないとして、ストライキの決行を検討するとともに国際労働機関(ILO)に提訴するとの見解を示した。

19 日、公務員労連代表者は政府関係省庁と協議を進め、政府は細則(reglamento)を策定することで強制解雇の規定を定めると確約した。

同日、労働関係省は労働時間内に一連の活動に関与した者を報告するよう公的機関 67 ヶ所の幹部に通達した。労働時間内に活動に関与した者は職務不履行として国家会計検査院に報告したうえで処罰を検討するとした。このように政府は公務員に圧力をかけたことで、公務員関係者は処罰を恐れ、実施予定であったストライキを中止した。

(6)メチルアルコール含有密造酒による被害

16 日、ロス・リオス県を中心にメチルアルコール含有密造酒を飲んだ 23 名が死亡し、1000 名以上が病院に搬送され、負傷者の多数が失明など重篤な症状がみられる。政府は右状況を鑑み国内全土に 3 日間の禁酒令が発出した。

(7)エル・ウニベルソ新聞社訴訟:第一審判決

2011 年 2 月 6 日、エル・ウニベルソ紙はパラシオ(Emilio Palacio)編集記者が執筆したコラム“*No a las mentiras*”を掲載した。パラシオ氏はそのコラムで、コリア大統領を独裁者としたうえで、独裁者は 9 月 30 日騒擾事件で犯罪者として仕立て上げた者達を赦免しようと考えている。独裁者は間抜けにも事件の舞台となるキト警察本部に向かった。誰が大統領自身が警察本部に行くことを予想し暗殺を企てることが出来ようか。9 月 30 日事件は愚行の極みであり、コリア大統領による人道的犯罪は忘れ去られることはなく、時効になることはない」と述べた。

同年 4 月 4 日、コリア大統領は記事に誤りがあり名誉毀損であるとして、エル・ウニベルソ社を相手取り総額 3 千万ドルの賠償金、同様に同社執行役員のカルロス・ペレス(Carlos Perez)、セサル・ペレス(Cesar Perez)、ニコラス・ペレス(Nicolas Perez)及び、パラシオ編集記者を相手取り総額 5 千万ドルの賠償金並びに禁固刑 3 年を求め、グアヤス県裁判所に訴訟を起こしていた。

同年 7 月 20 日、パレデス(Juan Paredes)刑事保証第 15 法廷臨時判事は 156 頁に亘る判決を下し、パラシオ元ウニベルソ編集記者による誹謗中傷は侮辱罪にあたるとして、カルロス・ペレス同社役員、セサル・ペレス同役員、ニコラス・ペレス同役員、及びパラシオ元記者に対し禁固刑 3 年並びに総額 3 千万ドルの賠償金を支払うよう命じた。同様に、エル・ウニベルソ社に対しても総額 1 千万ドルの賠償金を支払うよう命じた。

同日、ウニベルソ社は「我々は創刊から 90 年に亘り汚職を見つけ権力を監視してきた。報道の自由を求める闘いを続ける」と発表し上告する意志を示した。

(8)警察・陸軍による治安コントロール強化

25 日、キト市内ショッピングモール「エル・レクレオ」での現金輸送車襲撃事件を受け、キト市内数箇所警察及び陸軍による厳重なコントロールが実施されている。一般車両や二輪車及び不審者等に対して、身分証明書や車両登録証の提示、所持品検査及び銃器不法所持の摘発が行われている。

3. 外交

(1) 国際原子力機関(IAEA)関係

3日、天野之弥・国際原子力機関(IAEA)事務局長は同期間の経済協力の成果を視察すべくエクアドルを訪問した。2008年に国際原子力機関(IAEA)は臓器バンク運営のための機材を供与している。視察では同病院2階にある供与機材(超冷凍装置・保存殺菌装置)が公開され、同様に臓器バンクの設計図も同じく公表された。

(2) 対ブラジル関係

14日、パトリオタ(Antonio de Aguilar Patriota)伯外相がエクアドルを訪問した。ブラジル政府は、今般訪問は有益なものであったとし、「この3~4ヶ月は関係改善の時機ではなかったが、双方の相違を乗り越え、且つ協力分野を拡大するとの両国大統領による確約が存在する。その中で伯政府はエクアドル産バナナの輸入障壁を下げ、マラクヤ、エビ、マグロ、ジャガイモ、コショウ、トマト、マンゴ、タマネギ、ブドウなどの輸入禁止を撤回する。これらの初荷はナポ県からの水路を利用し運送され、到着には8~10日間程かかる予定である。2~4ヶ月後にはマナオスへの物流は増大し、年間4万コンテナの移動を見込んでいる。」旨述べた。

(3) 対ペルー関係

27日、コリア大統領はペルーを訪問し、ウマラ・ペルー新大統領の国会での就任宣誓式に出席した。

(4) 対キューバ関係

21日、コリア大統領はキューバの病院でガン療養中のチャベス・ベネズエラ大統領を見舞うためキューバを訪問した。パティーニョ外相も右訪問に同行し、チャベス大統領は病氣中であるにもかかわらず、強い気力を持っており満足した旨述べた。

コリア大統領は今般訪問を利用し、ALBA 諸国における識字教育プロジェクト強化の重要性につき協議すべく、ラウル・カストロ議長及びフィデル・カストロ前議長と会談した。

(5) 対英関係

25日、ジェレミー・ブラウン英国外務閣外相が当国を訪問し、キント・ルーカス外務大臣臨時代理、並びにパブロ・ピエドラ外務副大臣臨時代理、レオナルド・カリオン外務省移民難民担当次官、ラウラ・ドノソ同省欧米担当次官、アンナ・アルバン在英エクアドル大使、イボン・バキ・ヤスニ ITT 運営交渉委員会委員長と会談した。ブラウン英外相は政治・経済・文化など分野での、エクアドルとの良好な関係発展に関心を示した。

(6) 対ヨルダン関係

1日、モレノ副大統領はヨルダンを訪問し、ザイード王子と会談した。障害児も遊べる公園、知的障害児に関する Beit Issie Shapiro 研究所の予防治療、障害者への医療支援を視察した。

(7) 対エジプト関係

3日、モレノ副大統領はエネルギーに関する協定、貿易促進のため、エジプトを訪問しシャラフ首相と会談した。会談ではガス開発に対するエジプトの協力、エジプト市場におけるエクアドル製品の販売促進について協議した。